



宮司プレス 第四百四十八

彦島八幡宮 宮司ニユース
 発行者 彦島八幡宮
 宮司 柴田 宜夫
 発行 令和元年 十一月二十一日

◇宮司の柴田です。皆様、大変お待たせを

致しました。約三ヶ月ぶり、八十八日ぶりの宮司プレス第百四十八号の発行です。「五経」の一つ、中国最古の詩集である「詩経」、孔子の編ともいわれていますが、「靡不有初 鮮克有終」とあります。読み下しますと、「初め有

(あ)らざるは靡(な)し、克(よ)く終わり有(あ)るは鮮(すぐ)なし」です。現代訳を試(こころ)みますと、「初めは誰だつて頑張るが、最後までやり遂げるのは容易ではない」と書かれています。最初の九十一号までは、毎月欠かさず発行を続けられたのですが、とうとう、十四カ月も遅れてしまいました。

遅れた理由については、多くを語りたくはありませんが、「鮮克有終」、「継続は力なり」を実感させられた、この空白の八十八日間でした。

◇「雨過天晴雲破処」、さて、何と書いてあり、どういうような意味があるのでしょうか。

「うかてんせい くもやぶれるところ」と読みます。平成二十八年二月発行の宮司プレス百十一号に詳述(しょうじゅつ)しています。

「雨過天青雲破処(うかてんせい)くもやぶれ

るところ)」、これは唐の国の皇帝が、このよ

うな色の青磁(せいじ)の壺(つぼ)を欲(ほつ)したという言葉です。その意味は、雨が止み、雲の隙間(すきま)からのぞいた青空の青こそ、もつとも澄み切つて清々しい青だということ。私が、初めてこの言葉

を知つたのが、葉室麟(はむろ りん)さんの「蒼天見ゆ」という本を読了(どくりよう)した時でした。その「蒼天見ゆ」という著書、幕末に、失意の内に暗殺された父の敵を果たそうと、明治時代に禁止されていた「仇討(あだうち)」を成し遂(と)げた、天野六郎さんというのが主人公です。その六郎さん

は、母から、亡くなつた父の教えを聞かされません。「青空を見よ。時に曇り、雷雨(らいう)ともなるが、いずれ青空が戻つてくる。それを信じれば何があろうとも悔い

ることはない。いかなる苦勞(くるわ)があろうとも、いつか頭の上には青い空が広がる。そのことを忘れるな。蒼天を見よ。」、自らが何を

なして参ればよいか思い迷つたときの心構えを諭(さと)されたのです。思わず、落

涙してしまったことを、よく覚えています。

過日の十月二十二日の「即位礼正殿の儀(そくいれいせいでんのぎ)」の映像をテレビで見させて頂きました。降りしきる雨が、天皇陛下が、おでましになると、雨が止み晴れ渡つたではありませんか。私は、その瞬間、

この、「雨過天晴雲破処」の言葉を思い出し、感動も一入(ひとしお)でありました。この令和の時代も、希望に満ち溢れ、その希望を天皇陛下皇后陛下共々に、国民が共有できるので

はないかと思わせるような、光景でありました。令和に入り、自然災害の悲惨(ひつぱん)さ恐ろしき、天然の無常(むじやう)を思い知らされています。自然現象は、科学の宿命(しゆめい)ではありますが、人力ではどうしようもなく、いち早い復興(ふっこう)を願うものでありますし、日毎、月毎、折節(おりふし)毎のお祭りを、心を込めて御奉仕(ごほうじ)し上げ、「大難は小難、小難は無難」になるよう祈りを捧げなければ

と、思いを新たにしています。寺田寅彦さんは、「自然現象から逃(のが)れる事は出来ないが、注意次第で災害を軽減(けいげん)できる可能性がある」と述べられています。今年の

私の講演でのキャッチフレーズである「四Kの敬神生活、感謝・謙虚・希望・工夫」、寺田寅彦さんの仰(おっしゃる)るその注意次第の一つ

の「心がけ」になるのではないのでしょうか。そして、私は、最近の講演では、「プラス一R」を

して、私は、最近の講演では、「プラス一R」を

提唱しています。その「一R」は、「利他（りた）」、思いやり」だと思っています。孔子も、「己の欲せざるころ、人に施すなかれ」、「自分がされたくないと思うことは、人にしてはならない」と説かれました。それが、怒（じよ）という心、思いやりなのです。まさに、「利他」なのです。その日本人の「利他」のお手本となるお姿が、私は、天皇陛下皇后陛下ではないかと思えます。即位礼（そくいれい）、祝賀御列（しゆくがおんれつ）の儀、大嘗祭（だいじようさい）を無事に終えられた両陛下、被災地への御巡幸を熱望されていらつしやるそうで、大変有り難く思えます。常に国民に寄り添っていらつしやるお姿に感謝の気持ちで一杯です。鎌倉時代に制定された法律に、「御成敗式目（ごせいばいしきもく）」があります。その第一条に、「神は人の敬によって威を増し人は神の徳によって運を添う」とあります。神様は、人々の敬いによってお力が増大し、その増大したお力によって我々の暮らしが良くなっていくと定められています。この法律の「神」を「天皇陛下」に、恐れながら替えさせて頂きますと、我々が、天皇陛下をお慕い申し上げれば申し上げるほど、天皇陛下の御存在が大きくなり、我々の暮らしが明るく豊かなものになるのではないのでしょうか。人気コーラスデュオの「コブクロ」さんの「さくら」という歌

の歌詞にも「止まない雨はない」とあります。まさに、「雨過天晴雲破処（うかてんせい）くもやぶれるところ」、我々国民の心に光を当ててくださる天皇陛下皇后陛下の御即位を心からお祝い申し上げます。御自愛ください。

- ◇九月、十月、十一月の祭典行事会議等活動報告
- ▼月次祭 *九月一日、十五日、十月一日、十月十五日
- ▼貴布禰神社月次祭 *九月一日、十月一日、十一月一日
- ▼若宮神社例祭 *九月六日、七日
- ▼朝粥会 *九月二十一日、十月二十一日
- ▼貴布禰神社例祭 *九月二十二日、二十三日
- ▼秋季祖霊祭 *九月二十三日
- ▼秋季例大祭
- ◆六連島八幡宮
- ▼前夜祭 *十月四日
- ▼本殿祭、御神幸祭 *十月五日
- ◆田の首八幡宮
- ▼前夜祭 *十月十二日
- ▼本殿祭、御神幸祭 *十月十三日
- ◆彦島八幡宮
- ▼前夜祭 *十月十八日
- ▼本殿祭 *十月十九日
- ▼御神幸祭 *十月二十一日
- ▼舞子島八幡宮例祭 *十月十五日
- ▼明治祭 *十一月三日

- ▼龍宮神社例祭 *十一月三日
- ▼大嘗祭臨時大祓（りんじおおはらい） *十一月十三日

▼八幡宮関係団体

- ◆グランドゴルフ会秋季例大祭奉納大会 *九月二十九日
- ◆敬神婦人会役員会 *十月二日
- ◆奉賛会役員会 *十月四日
- ◆彦島八幡宮リーグ打合せ *十月七日、十五日
- ◆秋季例大祭奉仕者説明会 *十月十六日
- ◆第八回彦島八幡宮ソフトボール大会 *十一月十日
- ▼山口県神社庁、同下関支部関係
- ◆神社関係者大会 *九月三日
- ◆下関支部総代敬婦合同役員会 *九月九日
- ◆下関市敬神婦人会茶話会 *九月十八日
- ◆山口県神社庁神宮大麻頒布始祭 *十月十日
- ◆県内支部頒布始祭出向
- 周南支部 *十月二十四日
- 阿萩支部 *十月三十日
- 下関支部 *十一月五日
- ◆天皇陛下御即位下関奉祝大会 *十一月十七日
- ▼下関西ロータリークラブ
- 例会 *九月四日、十一月、十八日、二十五日、十月二日、九日、十六日、二十三日、二十七日（地区大会、十一月六日、十一月十三日）■理事会 *九月十一日、十月九日
- ▼下関木鶏クラブ八月例会 *十月一日